

# 当面の病床機能の転換予定等



和歌山県福祉保健部健康局医務課



## 当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

No.	医療機関名	将来目指す医療機能の方向性 (令和元年11月29日付け医第11290001号 「病床機能の現状及び今後のあり方等 に関するアンケート」結果より)		転換等の内容	転換等の時期
1	笠松病院	C	(主として)療養病床	転換 介護療養病床15床を医療療養病床へ転換 ＜転換後の機能別病床数＞ 慢性期47床(増減なし)	令和3年4月
2	伏虎リハビリテーション病院	F	ケアミックス型	廃止 慢性期53床のうち、10床を廃止 ＜廃止後の機能別病床数＞ 回復期36床(増減なし) 慢性期43床(▲10床)	令和4年4月
(報告)	琴の浦リハビリテーションセンター附属病院	B	地域密着型協力病院	転換 これまで1病棟(48床)を急性期に分類してきたが、病床機能報告マニュアルや定量的基準を考慮し、回復期に分類する。 (機能区分の選択変更のみ。入院料等の変更なし。) ＜転換後の機能別病床数＞ 急性期 0床(▲48床) 回復期108床(+48床)	令和2年度 病床機能報告より

### 議題1 和歌山保健医療圏構想区域における当面の病床機能転換等の予定について

昨年12月から本年1月にかけて実施した病床機能転換等に係る意向調査にご協力いただき、ありがとうございました。

ご報告いただいた結果、和歌山保健医療圏における当面の病床機能転換等の予定は上記1～2のとおりです。

各医療機関とも、和歌山保健医療圏における地域医療構想の方向性とも概ね合致しているものと考えられますので、

上記2案件を調整会議として「了解する」ことについて採決を実施します。別添「書面決議書」にご記入の上、ご提出ください。(3月1日〆切)

※琴の浦リハビリテーションセンター附属病院は、令和2年度病床機能報告より機能区分を変更するもの。情報共有として今回報告。



病床機能の転換・病床数の変更等について

現在の病床機能【概要】				
＜令和3年1月現在＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期	1	療養病棟入院基本料1	32	95.25%
		(介護療養病床)	15	
計	1	—	47	—
(備考)				

現在の病床機能【詳細】
<p>昭和43年に病院を開設し、主に地域の救急医療を担っておりましたが、高齢化社会の到来に伴い、平成8年に県下で先駆けて療養型病院となりました。</p> <p>その後、平成12年に介護療養病棟を併設し、現在に至るまで、海南地域の慢性期患者様の受入れ先として、医療・介護・リハビリテーションを提供しております（リハビリに関しては、運動器リハビリテーション料Ⅱ及び脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅲを算定。）</p>

医療機関名

笠松病院

今後の病床機能				
＜令和3年4月以降＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期	1	療養病棟入院基本料1	47	(定員)
介護医療院				
計	1	—	47	
(機能転換・病床数変更等の概要) 介護療養病床15床を医療療養病床に転換し、合計医療療養病床47床に変更				

転換転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
<p>令和元年8月の地域医療構想調整会議において、「介護療養病床15床のうち8床を介護医療院に、6床を医療療養病床に転換、1床を廃止する」として協議いただきました。</p> <p>介護医療院への転換は国が推進している事業なので信頼したうえで移行する事に決めたものですが、その時点では国からの情報を十分に把握できておらず、移行した後の収益の試算が正確に出せていませんでした。</p> <p>その後、介護医療院に関する情報を入手するに伴い、介護医療院へ転換したとしても当院の経営難の改善が見込めないとの判断に至りましたので、介護医療院開設は中止しました。</p> <p>前回協議時には90.0%であった病床稼働率も現在では95.25%に上昇し、医療療養病床への入院希望者が空床待ちの状態でもあることから、介護療養病床15床は医療療養病床に変更することとし、医療療養病床47床で運営してまいります。</p>
<p>＜地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等＞</p> <p><input type="checkbox"/> 有      <input checked="" type="checkbox"/> 無      <input type="checkbox"/> 検討中      <input type="checkbox"/> 指定済み</p>



病床機能の転換・病床数の変更等について

現在の病床機能【概要】 <令和3年1月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期	0			
急性期	0			
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料 I	36	93.5%
慢性期	2	療養病棟入院基本料 I	29	79.4%
		介護療養病棟	24	68.3%
計	3	—	89	—
(備考)				
・ 地域包括ケア病棟入院料 I (看護補助者配置加算)				
・ 療養病棟入院基本料 I (在宅復帰機能強化加算)				
・ 稼働率は令和2年12月数値				



今後の病床機能 <令和4年4月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期	0			
急性期	0			
回復期	1	地域包括ケア病棟入院料 I	36	
慢性期	2	療養病棟入院基本料 I	28	
		介護療養病棟	15	
介護医療院			0	(定員)
計	3	—	79	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
・ 地域包括ケア病棟入院料 I : 36床→変更なし				
・ 療養病棟入院基本料 I (在宅復帰機能強化加算) : 29床→28床 (1床減)				
・ 介護療養病棟 : 24床→15床 (9床減)				

現在の病床機能【詳細】
地域包括ケア病棟入院料 1 (看護補助者配置加算) を算定している36床は、年間救急搬送受入件数43件、手術件数76件、リハビリの実施平均単位2.65単位 (直近3カ月の数字) 在宅復帰率75.34% (直近6カ月の数値) で、ポストアキュート、サブアキュート機能を兼ね備え、急性期患者様も一部受け入れ可能な回復期機能を担う病床です。 サブアキュート機能を更に強化するにあたり、看護職員配置加算の算定も視野に入れております。
療養病棟入院基本料 1 を算定している29床については、在宅復帰機能強化加算も併せて算定しております。直接療養病棟への入院も年間42件あり、必要に応じてリハビリを実施し、在宅復帰率77.78% (直近6カ月の数値) で、療養のみならず確実に治療も行える慢性期病床です。
介護療養病棟の24床については、介護度が高く (1月13日現在、要介護5 : 59%、要介護4 : 29%、他 : 12%)、また医療のニーズも比較的高い、長期療養が必要とされる患者様にご利用いただいております。



転換転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
和歌山県地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築、当院における近年の非稼働病床の推移等を総合的に勘案し、介護療養病床9床と医療療養病床1床を削減する予定です。また、残りの介護療養病床につきましても、将来的には介護医療院への転換を考えております。
ポストアキュート、サブアキュート機能に加え、医療と介護の橋渡し役として、また地域包括ケアシステムの要として、入院治療が必要な地域の患者様を積極的に受け入れ、今後もケアミックスの79床をフルに活用して地域医療に貢献してまいりたいと思っております。
<地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等>
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 指定済み